演題番号:O-20

東日本大震災後のアウトリーチ型料理教室の第三者評価
ステークホルダーへの報告会の試み

～実践報告～

黒田藍[1)] 木下ゆり[2)] 齋藤由里子[3)] 山田幹夫[3)] 福田吉治[1)]

1)帝京大学大学院公衆衛生学研究科
2)東北生活文化大学短期大学部
3)公益財団法人 味の素ファンデーション

第30回日本健康教育学会
COI開示

発表者名 ： 黒田藍 木下ゆり 齋藤由里子 山田幹夫 福田吉治

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等は下記のとおりです。

受託研究 ： 公益財団法人 味の素ファンデーション

背 景

公益財団法人　味の素ファンデーション(The Ajinomoto Foundation ： TAF)は、東日本大震災後、**東北3県**で復興応援事業 「**ふれあいの赤いエプロンプロジェクト**」を実施。

事業目的	①被災者の**食生活と栄養状態の改善** ②災害で破壊された**地域コミュニティの再生・活性化への貢献を通じた復興応援**
事業内容	各地域の**パートナー団体(自治体、社会福祉協議会等)と連携した取組** **アウトリーチ型「料理教室」**
テーマ	**いっしょに作って、いっしょに食べよう**

＜活動実績＞　開催回数：延**3,771**回　／　参加者数：延**54,434**名

食をテーマにした8年半にわたる被災地支援の活動として他に類のない活動。

本報告の目的

帝京大学が実施した**本プロジェクトの評価**、及びステークホルダー（パートナー団体・料理教室参加者、ドナー）を対象に公益財団法人味の素ファンデーションが開催した**プロジェクト評価結果の2つの報告会**のプロセスと効果について報告する。

～味の素ファンデーションにおける評価の位置づけ～

「**一緒に作って一緒に食べた仲間で一緒にまとめよう**」

実施主体だけでなく、ステークホルダーも一緒にまとめを行う参加型の取組

活動内容①：帝京大学によるプロジェクト評価

1） 評価の実施

評価受託機関	帝京大学 （味の素ファンデーションからの委託を受けて実施）
評価実施期間	2019年～2021年
評価方法	①**質問紙調査とインタビュー調査** ＜対象＞ 料理教室参加者（住民）、パートナー団体（自治体、食生活改善推進団体、社会福祉協議会、NPO、自治会等）、味の素ファンデーションスタッフ ②**活動記録を用いた分析** （活動実績・献立の変遷・栄養価分析等）

主に「食と栄養」と「地域コミュニティ」の2つの観点から評価を実施。

活動内容①：帝京大学によるプロジェクト評価

2） 主な評価結果

①プロジェクトのデザイン

破壊された**コミュニティや人々のつながりを復活する**ための

「人々の心と身体を元気にする」画期的な介入モデル

◆ 介入モデルの構成要素 ◆

1）多様な地元機関との連携
2）アウトリーチ
3）持続性
4）食を手段としたコミュニケーションの促進
5）徹底した受益者目線のコンテンツ

②プロジェクトの主なアウトカム評価

地域コミュニティ

仲間の獲得　閉じこもり予防

食と栄養

健康への意識　調理への能動的な変化

活動内容②：ステークホルダーへの報告会

◆ 報告会開催の味の素ファンデーションにおける目的 ◆

ステークホルダー※1と一緒にプロジェクトを総括し今後に活かす

※1 料理教室参加者・パートナー団体・ドナー

◆ 具体的目標 ◆

評価結果を**料理教室参加者やパートナー団体・ドナーと共有**し、

① プロジェクトの成果を**自分自身のこととして再認識**する

② 改めて参加者からの意見を踏まえ、**一緒に「教訓」と「提言」をまとめる**

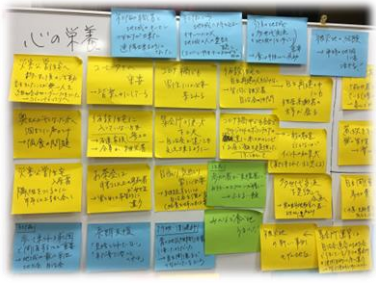
③ 被災地以外でのプロジェクト展開に必要な要素を見つける

（他の被災地支援に活かすことで、**受援者から支援者に**なって頂く）

活動内容②：パートナー団体・料理教室参加者への報告会

1）実施状況

実施期間	2021年10月から開始
実施回数・参加者数	2022年4月までに計4回 ／ 合計45名
実施内容	① 調査担当者・味の素ファンデーションからの報告 ② 報告会参加者でのディスカッション



活動内容②：パートナー団体・料理教室参加者への報告会

2）第三者評価結果を共有した効果

料理教室参加者やパートナーの気づき

効果① **料理教室の効果を当事者として再認識**

効果② **活動継続や再開への意識の醸成**

参加者

自分たちは、こんなに
すごいことをやっていたんだ…

またみんなで一緒につくって、
食べたい・・・

パートナー

昔の保健活動を思い出した

関係機関同士の連携強化につながった！

新しいつながりのきっかけになっていた

味の素ファンデーションの気づき

外部の支援者だからこそ言えることもある。

長期的な支援の中で寄り添い続けた効果がある。

効果③ **後方支援や他の地域での展開方法への気づき**

活動内容③：ドナー（味の素グループ関係者）への報告会

1）実施状況

実施期間	2021年10月～2022年1月
開催方法	オンライン形式
実施回数・参加者数	計4回 ／ 約250名
実施内容	① 調査担当者からの評価報告 ・ ② 参加者間の意見交換

※ドナーは、料理教室開催時にボランティアとして活動することや運営上必要な食材・材料等を提供することを通じて活動を支援した。

2）第三者評価結果を共有した効果

・この活動が、現地の方にこんなに喜んでもらえていたとわかり誇らしく思えた。
・報告を聞いて、元気づけられた。現地の方や企画した部署への感謝の気持ちを伝えたい。

効果 **活動の効果を知り、自らの関わりや思いを振り返るきっかけ**
→食と栄養に携わる仕事の重要性の再認識とモチベーションの向上

本取組の評価

プロジェクト評価の実施

評価を**第三者が実施** ➡ ステークホルダー※1、及び味の素ファンデーションが**客観的に活動全体を俯瞰**し、その**効果を把握する**機会となった。

※1 料理教室参加者・パートナー団体・ドナー

報告会の実施

報告会において、**評価結果を共有**し、**ディスカッションする場**を設けた ➡

報告会参加者・TAF
双方の学び合い

エンパワメント

関係の深化・進化

中止した料理教室を再開

事業連携の開始

ステークホルダーをエンパワメントし、新たな展開につながる

今後の展望

1） 報告会の効果については、継続して分析を行い、

・**参加者の意見も踏まえた本プロジェクトの「教訓」と「提言」**のまとめ

・プロジェクトの**より効果的な実施方法の検討**

を進める。

2） 本プロジェクト評価や報告会をきっかけに**活動を再開した団体**について

・**活動再開のプロセスと活動の効果について評価**を実施

より効果的な実施方法を検討し、他の地域での転用可能性を高め、
被災地以外での取り組みにもつなげていく

謝　辞

「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」の料理教室に関わられた皆様、
そして、プロジェクトの評価、及び報告会に御協力いただきました皆様、
本発表資料の作成にご助言いただきました帝京大学の桑原恵介講師に、
こころより感謝申し上げます。

～ご清聴ありがとうございました～

いっしょに作って、いっしょに食べよう！
ふれあいの赤いエプロンプロジェクト